



Japan Foundation for
Regional Art-Activities

地域創造レター

8月号—No.280

2018.7.25

(毎月1回25日発行)

News Letter to Arts Crew

【木蘭色(もくらんじき)】灰色がかった黄色。

薬効があると言われるミロバランで染められたインドの修行僧の衣の色のひとつ。質素な色として着用されたのは、壊色(えしき)と呼ばれる濁った青、濁った黒、濁った黄の3色のみだった。仏教が日本に渡来する間に法衣の色も変わり、宗派によって色も形も位も独自に発展。袈裟には高僧こだわりの逸品もあるようだし、22世紀に向けてアーティストに委嘱した新作袈裟はいかがだろう。

●目次/contents

今月のニュース..... 2

平成31年度助成要綱決定/ステージラボ滋賀セッション報告

財団からのお知らせ..... 6

平成31年度「公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)」実施団体募集/
平成31年度「公共ホール音楽活性化発展継続事業」実施団体募集/
平成31年度「公共ホール音楽活性化支援事業(おんかつ支援)」実施団体募集/
平成31年度「公共ホール音楽活性化発展継続支援事業」実施団体募集/
平成31年度「公共ホール音楽活性化支援・文化庁連携事業」実施団体募集/
平成31・32年度「公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業」実施団体募集/
平成31年度「公共ホール音楽活性化政令指定都市アウトリーチセミナー事業」実施団体募集/
平成31年度「邦楽地域活性化事業」実施団体募集/理事会、評議員会の開催結果

今月の情報..... 9

地域通信

今月のレポート..... 12

北九州市「響ホールフェスティバル2018」

●平成30年10月1日(月)まで申請受け付け

平成31年度助成要綱が決定

平成31年度 助成要綱決定

「地域の文化・芸術活動助成事業」は、地方公共団体等の自主事業の企画制作能力の向上および公立文化施設の利活用の推進等を図るため、地域において自主的に実施する文化・芸術活動を支援するものです。

また、「地域伝統芸能等保存事業」は、地方公共団体等が実施する、各地域固有の伝統芸能等の記録・保存・継承事業に対して助成するものです。

募集締切：平成30年10月1日(月)必着

もたらす単年度の事業。

※創造プログラム(一般分)とは別枠で利用可能。

[2]連携プログラム

地方公共団体が単独では実施できず、経費削減など連携することにより初めて実施できるもので、3以上の地方公共団体が連携して、共同で制作する事業や、そのために行う連絡調整に係る事業(原則1年間。ただし、連絡調整に係る事業は、翌年度の公演等の助成も可能)。

[3]研修プログラム

公立文化施設等で企画運営に携わる職員や「地域文化コーディネーター」など地域の文化・芸術活動を担う者のスキルの向上、ノウハウの習得などを目指す実践的な人材育成事業(1年間)。

[4]公立文化施設活性化計画プログラム

公立文化施設の地域において果たすべき役割と、それを実現するための方策を記載した計画を策定する事業。

●地域の文化・芸術活動助成事業

[1]創造プログラム

◎一般分

地域の活性化に寄与する長期的展望を有し、発展的・継続的に事業を実施する上で他の地域の参考となるような顕著な工夫が認められる事業(最大3年間の助成。ただし、各年度の申請を審査した上で決定)。

◎企画制作力向上特別分

都道府県・政令指定都市が行う自主事業の企画制作力の向上や、他施設への波及効果を

事業名	分野	事業実施者			
		地方公共団体			指定管
		都道府県	政令指定都市	市区町村	特定指定管理者(※) 注1
[1]創造プログラム(一般分)	音楽 演劇 ダンス 伝統芸能 美術 等			○	○
創造プログラム(企画制作力向上特別分)				×	都道府県・政令指定
[2]連携プログラム 連絡調整事業		○	○	○	○
[3]研修プログラム				○	○
[4]公立文化施設活性化計画プログラム					
[1]地方フェスティバル事業	地域伝統芸能等	○	○	○	○
[2]保存・継承活動支援事業		×	○	○	×

●助成要綱および申請書類等は、当財団のウェブサイトに掲載しています。

<http://www.jafra.or.jp>

→「様式箱」よりダウンロードできます。

※申請書は、都道府県・政令指定都市が管内の市区町村等の分を取りまとめて、地域創造へ提出してください。各市区町村等においては、都道府県等のとりまとめ団体の期限も確認し提出してください。

●「地域の文化・芸術活動助成事業」に関する問い合わせ

総務部 川口

Tel. 03-5573-4164

●「地域伝統芸能等保存事業」に関する問い合わせ

総務部 米山

Tel. 03-5573-4056

● 地域伝統芸能等保存事業

[1] 地方フェスティバル事業

地方公共団体が実施する、地域固有の伝統芸能等を保存・継承するための公演事業に対して助成する事業。

[2] 保存・継承活動支援事業

市区町村が実施する、地域固有の伝統芸能等の保存・継承のために活動している団体等への支援事業に対して助成する事業。

※映像記録保存事業は平成31年度も実施予定ですが、現在詳細について検討中です。

● 現在検討中の事業

道路、公園等の公共空間で行われる文化・芸術活動で一定のものを新たに助成対象とすることについて現在検討中です。

(参考)平成30年度「地域の文化・芸術活動助成事業」採択実績

	申請事業数	決定事業数
創造プログラム(一般分)	98	71
創造プログラム(企画制作力向上特別分)	25	16
連携プログラム	66	52
研修プログラム	21	10
活性化計画プログラム	3	0
合計	213	149

(参考)平成30年度「地域伝統芸能等保存事業」採択実績

	申請事業数	決定事業数
地方フェスティバル事業	15	9
映像記録保存事業	5	5
保存・継承活動支援事業	20	18
合計	40	32

理者	特定公益法人(※) 注1	実行委員会等 注3	会場	助成措置			申請期限
				助成率	助成の上限額 (1年ごと1団体ごとの金額)	対象期間	
○	○	○	都市に係る指定管理者、特定公益法人、実行委員会等 ○	1/2以内	1,000万円	2年 もしくは3年	平成30年 10月1日(月) 必着
						1年間	
○	○	○	原則として、当該申請団体の区域内に所在する公立文化施設	2/3以内	500万円 ※連携する事業全体で3,000万円	1年間	
						事業前年 1年間	
						1年間	
2年以内							
○	○	○ (保存会も含む)	原則として、当該申請団体の区域内に所在する公立文化施設	1/2以内	都道府県等：200万円 市区町村等：50万円	1年間	
×	×	×		1/2以内	30万円		

左表脚注

※ 特定指定管理者とは、地方公共団体が1/2以上出資している公益財団法人等で指定管理者の指定を受けているものをいう。
一般指定管理者とは、上記以外の指定管理者をいう。
特定公益法人とは、地方公共団体が1/2以上出資している公益財団法人等で地域創造が特に認めたものをいう。

注1 設置者である地方公共団体の長の副申書を添付

注2 設置者である地方公共団体の予算を経由して間接的に助成

注3 地方公共団体が実行委員会等に対して負担する額を助成対象

開館20周年のびわ湖ホールで多彩なカリキュラムを実施

ステージラボ 滋賀セッション 報告

2018年7月3日～6日



これまで、東大阪市には文化や芸術は全然なくて、あるのはラグビーと闘球場だけ...そんな風に思っていました。このステージラボで、ものをつくるという気持ちは文化や芸術だけでなく、その土地に根付くものを見つけることが、大切だと学びました。東大阪に根付く、様々なジャンルのものづくり魂を持った市民の創造活動を支えるホールになりたいです。

写真

左上: 自主事業(音楽)コース「サウンドと語り合う～イメージ編～」(松本太郎さんから尺八のレクチャーを受ける)

右上: 事業入門コース「コンテンポラリーダンス編 ワークショップを経験して、クリエイションと公演を企画から創ってみる」

左下: ホール入門コース「夢宣言」

右下: 共通プログラム「合唱の愉しみ～人はなぜ歌声を和することに喜びを感じるのか?」

●コースコーディネーター

◎ホール入門コース

吉本光宏(株)ニッセイ基礎研究所研究理事[社会研究部 芸術文化プロジェクト室長]

◎事業入門コース

津村卓(上田市交流文化芸術センター館長/北九州芸術劇場顧問/地域創造プロデューサー)

◎自主事業(音楽)コース

中村透(作曲家/芸術文化学博士/琉球大学名誉教授/静岡県コンベンションアーツセンターグランシップ芸術監督/地域創造顧問)

文化芸術に携わる職員を対象に平成6年より実施し、これまで3,120人が受講しているステージラボは今回で49回目を迎えました。今回はホール入門、事業入門、自主事業(音楽)の3コースが開講され、56人の方が参加されました。会場となったのは、開館20周年を迎えるびわ湖ホール(滋賀県立芸術劇場)です。現在は2代目の沼尻竜典さんが芸術監督を務め(初代は故若杉弘さん)、開館当初からプロデュースオペラや子どものためのオペラを制作。日本で唯一の専属声楽アンサンブルを有する“関西オペラの拠点”として知られています。

●原点に立ち返った入門2コース

入門者向けに、公立ホール職員として自らと向き合う「ホール入門コース」と、舞台芸術の事業企画について考える「事業入門コース」の2コースが開講されました。前者のコーディネーターは地域創造の調査研究事業で全国をリサーチしてきたニッセイ基礎研究所の吉本光宏さん、後者が地域創造プロデューサーであり、びわ湖ホールや北九州芸術劇場、サントミュージゼの立ち上げに携わった公立ホールの第一人者である津村卓さんです。

ホール入門では、自治体規模別のグループで徹底的なディスカッションが行われました。受講生たちは、事前課題として作文「ホールで実現したいこと」を提出。社会と関わりながら育成から鑑賞まで循環するプログラムを実践するホールやNPOの先進事例を学び、中川賢一さん(ピアニスト)と宮本妥子さん(パーカッショニスト)が北海道深川市で小中学生を対象に行い、手応えを感じたというアウトリーチ・プログラムを体験。ステージ上でアーティストを囲むように座った受講生たちは、雰囲気のある照明の中、メトロノームを小道具のように使ったカーゲルの現代音楽『MM51』、ピアノとパーカッションの前衛的なコラボレーションなど妥協のない演奏にふれ、改めて舞台芸術の真髄について思いを巡らせていました。

最終日には、ひとりずつステージに立ち、ホールで実現したい“夢”を宣誓。「マルシェをやりたい」「自分を変え、地力を上げていきたい」「一時的なものに終わらせない、参加から始まる好循環を実現したい」「大きなりビングルームのような場にしたい」「市役所の職員との繋ぎ役になりたい」「ものづくりの魂がまちの資産」などなど、それぞれの思いを言葉にして

▼ 今月のニュース

地域創造からのニュースを毎月掲載します

いました。

事業入門では、演劇、音楽、ダンスのジャンルごとに、地域での豊富な経験をもつアーティストのワークショップと実務家の講義を受け、ホールでの事業企画としてまとめる「体験から企画まで」を各4時間で行う実践に挑みました。

音楽では、宮本さんが仏具のオリンやさまざまな道具による音世界を披露し、打楽器の幅広い魅力をアピール。それを踏まえて演奏家と意見交換し、企画づくりを行いました。また、ダンスでは、セレノグラフィカ(隅地茉歩さん、阿比留修一さん)とJCDN代表の佐東範一さんが、これまでのノウハウを踏まえた新たなワークを展開。参加型で人の動きをつくり出すための手法を学び、グループに分かれて振付家・音楽家・衣装家・照明家などの役割分担を行い、ダンス作品の模擬創作体験を行いました。隅地さんは、「あらかじめ学んだことを皆さんが自主的にアレンジされていて、そのアプローチがプロの振付家と同じだったのでとても感動した。つくるといことはそれほど特別なことではないので、もっともっとホールでダンスをつくっていただきたい」とエールを送っていました。

● 風土とびわ湖ホールに学んだ音楽事業～自主事業(音楽)コースと共通プログラム

自主事業(音楽)コースのコーディネーターを務めたのは、2017年まで沖縄県南城市のシュガーホール芸術監督を務めた作曲家の中村透さんです。初めに地域の音資源について語り合い、各々の問題意識をもって、北島佳奈さん(ヴァイオリニスト)、松本太郎さん(尺八奏者)と協働して音楽パフォーマンスをつくるコラボレーションに挑みました。

まず、演奏家からそれぞれの楽器について学習。松本さんは尺八について、レファソラドの5音しかないこと、演奏法によって十二平均律にも対応できること、ムラ息奏法、西洋音楽の形式を取り入れた尺八の創作音楽などを紹介。「西洋音楽は小節という刻まれた時間の中に音楽があるが、日本の音楽は自分の中に時間がある」(中村)という邦楽の特徴にふれた尺八チー

ムの受講生は、まるで労働を象徴するかのような槌音の響き、風や祭りのざわめき、谷川俊太郎の詩『生きる』の言葉、松本さんの尺八の響きを構成し、自然と人間の営みを見事に表現したパフォーマンスを披露しました。また、地域を再発見するフィールドワークとして、大津市歴史博物館と三井寺の視察も行われました。

今回の共通プログラムでは、びわ湖ホールの声楽アンサンブル(全国規模のオーディションにより選考された劇場専属ソリスト16名)の取り組みを学ぶとともに、合唱の楽しみにふれるワークショップが行われました。今回は、その桂冠指揮者であり、大阪音楽大学学長の本山秀毅さんから直接指導を受けるという贅沢なワークショップになりました。最初はまともに声の出なかった受講生たちは、本山さんの一言一言で魔法にかかったように共鳴しあい、最後はひとつの響きになっていました。「日本では大人になると大勢で合唱する機会がないが、6万人で合唱する国もある。合唱はみんながそれなりに参加できるものであり、共鳴と呼吸が大切」と本山さん。合唱の大きい可能性を体感した貴重な機会となりました。



ホール入門コース「地域と向き合う③」：音楽アウトリーチ体験(パーカッションist・宮本妥子さんの演奏)

ステージラボ滋賀セッション プログラム表

	ホール入門コース	事業入門コース	自主事業(音楽)コース
	開講式/オリエンテーション・施設見学等		
第1日	「ダンスワークショップ：からだから」セレノグラフィカ	「身体解放と自己紹介」北村成美、津村卓	「コミュニティ・ワークショップと概論ゼミ」中村透
	全体交流会		
第2日	「先人に学ぶ①：北九州芸術劇場の実践から」龍亜希	「劇場法に沿って、劇場・ホールの仕事を再考してみる」津村卓	「耳を澄ます～足元の文化に潜む音楽の芽～」中村透
	「先人に学ぶ②：サントミューゼの実践から」小澤櫻作	「ワークショップを経験してコンサート企画から創ってみる」宮本妥子、後藤ゆり子、楠瀬寿賀子	「サウンドと語り合う～イメージ編～」北島佳奈、松本太郎、加地美秀子
	「先人に学ぶ③：質疑・意見交換」～「夢を語る(グループワーク)」小澤櫻作、龍亜希、吉本光宏	共通プログラム「合唱の愉しみ～人はなぜ歌声を和することに喜びを感じるのか?」中村透、本山秀毅、村島美也子	
第3日	「地域と向き合う①：拡張する劇場・ホールの役割」吉本光宏	「ワークショップを経験して、クリエーションと公演の企画を考える」内藤裕敬、津村卓	「耳を澄まし、目を凝らす～リフレクション～」中村透
	「地域と向き合う②：演劇と富良野の20年」篠田信子		「近江の歴史文化を訪ねて～フィールドワーク～」松浦俊和
	「地域と向き合う③：音楽アウトリーチ体験」宮本妥子、中川賢一	「コンテンツボラリーダンス編 ワorkshopを経験して、クリエーションと公演を企画から創ってみる」セレノグラフィカ、佐東範一	「企画書を作る」中村透
第4日	「夢に形を(グループワーク)」小澤櫻作、篠田信子、吉本光宏	「フィードバック 芸術が果たせること、私たちが出来ること」津村卓	「企画を検証し、先行事例に学ぶ」中村透
	「夢宣言」小澤櫻作、篠田信子、吉本光宏		
	修了式		

財団からのお知らせ

●平成31年度「公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)」実施団体募集

公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)は、オーディションで選ばれたクラシック音楽のアーティストと専門家のコーディネーターを公共ホールに派遣し、ホールとアーティストが共同で企画した学校や福祉施設等での地域交流プログラムやコンサートを実施することにより、公共ホールの利活用の促進やホールスタッフの企画・制作能力の向上、創造性豊かな地域づくりを支援するものです。アーティストは下記「登録アーティスト」より選定していただきます。

募集締切:9月25日(火)必着

◎対象団体

- 次の市町村等を対象とする。
 ①市町村(特別区を含み、政令指定都市を除く)
 ②市町村の公共ホール指定管理者 など

◎対象アーティスト

公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)登録アーティスト

◎事業内容

3日間の連続した日程で、次の事業を実施する。
 [公演]公共ホールで開催する有料のクラシック音楽コンサート 1回
 [地域交流プログラム]学校や福祉施設等でのミニコンサートやワークショップなど、地域との交流を図る事業 4回(1日につき2回)

◎経費負担・支援内容

- ・演奏家派遣経費(出演料、現地移動費を除く交通費、宿泊費等)
- ・地域交流プログラムに係る経費(主にピアノ調律費:10万円限度)
- ・コーディネーターの派遣
- ・全体研修会(事業実施に必要なノウハウ等の研修)および個別研修(現地下見)の実施

●平成31年度「公共ホール音楽活性化発展継続事業」実施団体募集

公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)実施団体を対象としたフォローアッププログラムです。おんかつで蓄積したノウハウを活用し、アウトリーチ事業を拡大した事業を行う市町村等に対して支援を行います。なお、登録アーティストのプロフィール等の資料は、本事業の対象団体に送付させていただきます。

募集締切:9月25日(火)必着

◎対象団体

おんかつ事業を平成30年度に実施した市町村等

◎対象アーティスト

公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)登録アーティスト

◎事業内容

5日間の連続した日程で、次の事業を実施する。
 [公演]公共ホールで開催する有料のクラシック音楽コンサート 1回
 [地域交流プログラム]学校や福祉施設等でのミニコンサートやワークショップなど、地域との交流を図る事業 8回(1日につき2回)

◎経費負担・支援内容

- ・演奏家派遣経費(出演料、現地移動費を除く交通費、宿泊費等)
- ・地域交流プログラムに係る経費(主にピアノ調律費:20万円限度)
- ・コーディネーターの一部派遣
- ・全体研修会(事業実施に必要なノウハウ等の研修)および個別研修(現地下見)の実施

平成30・31年度「公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)」登録アーティスト



©Kazashito Nakamura
 おかだ かな
 岡田 奏 [ピアノ]



©Yuji Sakai
 さかい ありき
 酒井 有彩 [ピアノ]



©Yuji Nakano
 なかの しょうた
 中野 翔太 [ピアノ]



©Takuya Tanaka
 たなか たくや
 田中 拓也 [サクソフォン]



©Taira Taira
 いたが しゅうへい
 糸賀 修平 [テノール]



©Naomi Yamamoto
 やまもと なお
 山本 奈央 [オカリナ]



©Izumi Mayu and Matsuda Gen
 いずみ まゆ まつだ げん
 泉 真由×松田 弦
 [フルート、ギター]



©Arpan Saxophone Quartet
 アーバンサクソフォンカルテット
 [サクソフォン四重奏]

●「公共ホール音楽活性化事業」事業実施要綱および事業申込書等は、当財団のウェブサイトに掲載しています。
<http://www.jafra.or.jp/>
 →「様式箱」よりダウンロードできます。

●おんかつ登録アーティストのプロフィールは当財団のウェブサイト「人材ネットバンク」→「登録アーティスト情報」に掲載しています。
<http://www.jafra.or.jp/jinzai/music/index.php>

●「公共ホール音楽活性化事業」「公共ホール音楽活性化発展継続事業」に関する問い合わせ
 芸術環境部 佐藤
 Tel. 03-5573-4185

●平成31年度「公共ホール音楽活性化支援事業(おんかつ支援)」実施団体募集

公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)実施団体を対象とした2カ年にわたるフォローアッププログラムです。おんかつで蓄積したノウハウを活用し、引き続き同様の事業を自主的に行う市町村等に対して財政的な支援を行います。なお、登録アーティストのプロフィール等の資料は、本事業の対象団体に送付させていただきます。

募集締切:9月25日(火)必着

◎対象団体

おんかつ事業を平成29年度または30年度に実施、または30年度におんかつ支援事業を初めて実施した市町村等

◎対象アーティスト

公共ホール音楽活性化支援事業登録アーティスト

◎支援内容

以下の①および②に係る経費の支援1年目:2/3、2年目:1/3を地域創造が助成します。

①演奏家に係る経費

出演料およびマネジメント料(上限あり)、交通費(現地移動費を除く)、宿泊費、日当、楽器運搬費(現地運搬費を除く)、損害保険料

②地域交流プログラムに係る経費

ピアノ調律料のみ(10万円限度)

※助成上限額等の詳細については、要綱をご確認ください。

●平成31年度「公共ホール音楽活性化発展継続支援事業」実施団体募集

公共ホール音楽活性化発展継続モデル事業実施団体を対象としたフォローアッププログラムです。引き続き発展継続事業同様の事業を自主的に行う市町村等に対して財政的な支援を行います。なお、登録アーティストのプロフィール等の資料は、本事業の対象団体に送付させていただきます。

募集締切:9月25日(火)必着

◎対象団体

公共ホール音楽活性化発展継続事業を平成30年度に実施した市町村等

◎対象アーティスト

公共ホール音楽活性化支援事業への登録が4年未満のアーティスト

◎支援内容

以下の①および②に係る経費の1/2を地域創造が助成します。

①演奏家に係る経費

出演料およびマネジメント料(上限あり)、交通費(現地移動費を除く)、宿泊費、日当、楽器運搬費(現地運搬費を除く)、損害保険料

②地域交流プログラムに係る経費

ピアノ調律料のみ(20万円限度)

※助成上限額等の詳細については、要綱をご確認ください。

●平成31年度「公共ホール音楽活性化支援・文化庁連携事業」実施団体募集

文化庁の「文化芸術による子供の育成事業(芸術家の派遣事業)」と連携し、「芸術家派遣事業に対する支援活動」および「公演事業」に対して助成を実施します。おんかつ支援事業のノウハウを活かした効果的なアウトリーチ事業を広げるとともに、公共ホールの活性化を目的とし、5カ年継続のプログラムを自主的に行う市町村等に対して財政的な支援を行います。なお、登録アーティストのプロフィール等の資料は、本事業の対象団体に送付させていただきます。

募集締切:8月20日(月)必着

◎対象団体

これまでにおんかつ支援(2年間)および発展継続支援モデル事業を実施した市町村等

◎対象アーティスト

公共ホール音楽活性化支援事業登録アーティスト

◎支援内容

以下の①および②に係る経費の支援1年目:4/5、2年目:2/3、3年目:1/2、4・5年目:1/3を地域創造が助成します。

①「公演事業」に係る経費

出演料およびマネジメント料(上限あり)、交通費(現地移動費を除く)、宿泊費、日当、楽器運搬費(現地運搬費を除く)、損害保険料

②「芸術家派遣事業」に係る経費

ピアノ調律料のみ

※助成上限額等の詳細については、要綱をご確認ください。

●「公共ホール音楽活性化支援事業」「公共ホール音楽活性化発展継続支援事業」「公共ホール音楽活性化支援・文化庁連携事業」に関する問い合わせ
芸術環境部 山居(やまずい)
Tel. 03-5573-4069

▼財団からのお知らせ

地域創造からのお知らせを毎月掲載します

財団からのお知らせ

●各事業の実施要綱および事業申込書等は当財団のウェブサイト「様式箱」→公共ホール等活性化支援事業(音楽)に掲載しています。

<http://www.jafra.or.jp/j/guide/box>

●「公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業」に関する問い合わせ
芸術環境部 山居(やまざい)
Tel. 03-5573-4069

●「公共ホール音楽活性化政令指定都市アウトリーチセミナー事業」に関する問い合わせ
芸術環境部 菊地
Tel. 03-5573-4064

●「邦楽地域活性化事業」に関する問い合わせ
芸術環境部 仕田
Tel. 03-5573-4078

●理事会、評議員会の開催結果

第117回理事会(6月7日開催)および第84回評議員会(6月27日開催)の決議により、平成29年度決算、事業報告および公益目的支出計画実施報告が承認されました(財務諸表および事業報告等は当財団ウェブサイトに掲載)。第84回評議員会では、任期満了に伴い理事12名、監事2名および評議員11名の選任が行われました。なお、石川善朗常務理事および上原恵美理事は、任期満了に伴い6月27日をもって退任しました。

また、第118回理事会(6月28日開催)の決議により、板倉理事が理事長として選定(再任)されるとともに、高尾理事が常務理事として選定(新任)されました(役員等の一覧は当財団ウェブサイトに掲載)。

●平成31・32年度「公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業」実施団体募集

この事業は、クラシック音楽のアウトリーチ手法および事業展開のノウハウを地域に蓄積するため、都道府県等と地域創造の共催により、都道府県全域の公共ホール担当者等を対象にしたシンポジウムのほか、新進演奏家と共にアウトリーチ手法を開発する研修、域内市町村でのアウトリーチ、市町村および都道府県規模のクラシックコンサートなどを、2か年にわたり実施するものです。事業を通じて、都道府県の公共ホールを核とした市町村とのネットワークづくりや、地域でアウトリーチを担う人材の育成を支援します。

募集締切:8月31日(金)必着

◎対象団体

①都道府県 ②都道府県の公共ホールの指定管理者等

◎事業内容

[研修事業]都道府県が主体となって、シンポジウム、全体研修会、アウトリーチ研修等を実施する。

[市町村公演事業]以下のプログラムを域内の4または6市町村で実施する。

①地域交流プログラム:学校でのアウトリーチ(ミニコンサート)など、地域との交流を図る事業を6回(1日につき2回)実施する。

②コンサート:市町村の公共ホールで、有料のクラシック音楽演奏会を1回実施する。

[総括公演プログラム]都道府県の公共ホールで、派遣演奏家全員が出演する有料のクラシック音楽演奏会を1回実施する。

◎経費負担・支援内容

- ・演奏家派遣経費(出演料、現地移動費を除く交通費、宿泊費等)
- ・事業経費の一部
- ・専門家(コーディネーター等)の派遣

●平成31年度「公共ホール音楽活性化政令指定都市アウトリーチセミナー事業」実施団体募集

この事業は、音楽アウトリーチのノウハウを政令指定都市等に普及することを目的として、政令指定都市等との共催により、公共ホール等を拠点とした音楽の演奏家による地域交流プログラムに関する研修会等を実施します。地域でアウトリーチを担う人材の育成や、公共ホ

ール関係者のネットワークづくりを支援します。

募集締切:9月25日(火)必着

◎対象団体

①政令指定都市
②政令指定都市の公共ホールの指定管理者等

◎事業内容

①研修会プログラムの策定:地域創造が派遣するアドバイザーと共同し研修会プログラムを策定する。

②研修会等の開催:当該市内および周辺市町村の公共ホール職員、文化行政担当者、教育関係者およびアーティスト等を対象とした地域交流プログラム並びに文化・芸術による地域づくりに関する研修会等を開催する。

◎経費負担・支援内容等

- ・アドバイザー等の派遣
- ・講師の派遣
- ・研修会等に係る対象経費(30万円を限度)

●平成31年度「邦楽地域活性化事業」実施団体募集

この事業は、都道府県および政令指定都市等と地域創造との共催により、公共ホール等を拠点とした邦楽の演奏家による地域交流プログラム事業やコンサートを実施します。本事業を通じて、都道府県等にアウトリーチ手法および事業展開のノウハウを提供し、都道府県等と市町村のネットワークづくりや人材の育成を支援します。

募集締切:8月31日(金)必着

◎対象団体

①都道府県、政令指定都市
②都道府県、政令指定都市の公共ホールの指定管理者等

◎事業内容

[研修プログラム]邦楽事業の制作手法や考え方を、事業参加者をはじめとした地域の関係者が理解・共有する研修会と、参加演奏家と地域交流プログラムの中身を具体化する合宿形式の研修会を実施する。

[地域交流プログラム]以下のプログラムを域内の3市町村で実施する。

- ・学校でのアウトリーチを原則4回(1日につき2回)
- ・市町村ホールでのホールプログラム(ワークショップ等)を1回

[総括公演プログラム]都道府県等のホールで参加演奏家が出演する有料のコンサートを1回実施する。

◎地域創造による経費負担・支援内容

- ・演奏家に係る経費(報酬、現地移動費を除く旅費、楽器運搬費等)
- ・各プログラムに係る経費の一部
- ・専門家(コーディネーター等)の派遣

▼ 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

地域通信

● データの見方

情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示してあるのは開催地です。📍マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

● 地域ブロック

[北海道・東北] 北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
[関東] 茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
[北陸・中部] 新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
[近畿] 三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
[中国・四国] 鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知
[九州・沖縄] 福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

● 情報提供先

ファックス、電話、e-mail でお願います。
Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4066
letter@jafra.or.jp
地域創造情報担当 高澤・三田

● 2017年10月号情報締切
8月31日(金)

● 2018年10月号掲載対象情報
2018年10月～12月に開催もしくは募集されるもの

地域創造ウェブサイト「人材ネットバンク」 掲載情報募集中

当財団ウェブサイト内に以下の情報を掲載するページを設けています。

- 公共ホール等の求人情報
- 公共ホール等で実施する人材育成研修の開催情報

掲載・申込方法など詳細はウェブサイトをご覧ください。 <http://www.jafra.or.jp/>

北海道・東北

● 宮城県塩竈市

塩竈市杉村惇美術館
〒985-0052 塩竈市本町8-1
Tel. 022-362-2555 阿部沙斗加
<http://sugimurajun.shiomo.jp/>

若手アーティスト支援プログラム Voyage 氏家昂大・田中望展「土のみち 土のさち」

若手アーティストに展覧会やワークショップなどさまざまな表現の場を設けるプログラム。4回目は陶芸家・氏家昂大と画家・田中望の二人展を開催。貫入に漆を染み込ませた独創的な技法で制作された氏家の作品と、各地のフィールドワークや調査に基づきながら自身の実体験も踏まえて制作を行う田中の作品を展示し、その土地の歩みや恵みに焦点を当てる。

[日程] 7月7日～8月26日
[会場] 塩竈市杉村惇美術館

● 宮城県大河原町

えずこホール(仙南芸術文化センター)
〒989-1267 柴田郡大河原町字小島1-1
Tel. 0224-52-3004 星井理賢
<http://www.ezuko.com/>

えずこシアター第21回『別冊 江戸川乱歩』

住民劇団えずこシアターでは演劇を通じたコミュニティづくりを目指し、幅広い世代の地域住民と俳優と一緒に舞台を制作している。今回の作品は江戸川乱歩の『黒蜥蜴』『少年探偵団』などを基に、劇団山の手事情社の倉品淳子が構成・演出。ここでは観られないオリジナルな舞台に、25名の出演者が挑む。

[日程] 8月25日、26日
[会場] えずこホール

● 山形県山形市

アフィニス文化財団
〒107-0052 東京都港区赤坂

2-13-5 赤坂会館ビル4F
Tel. 03-5797-7135 小崎久美子
<http://www.affinis.or.jp/>

アフィニス夏の音楽祭2018山形

全国のプロオーケストラ・メンバーと世界の名門オーケストラの首席奏者らが集まり、室内楽の名曲に取り組む、日本で唯一の音楽祭。1989年に始まり山形では今年5回目、グランドフィナーレとなる。室内楽演奏会、山響との合同オーケストラ演奏会(指揮:秋山和慶)のほか、山形大学の学生がプロデュースする地域施設との交流企画も。

[日程] 8月19日～26日
[会場] 山形まなび館、山形県郷土館「文翔館」議場ホール、山形テルサ・テルサホールほか

関東

● 栃木県宇都宮市

栃木県立美術館
〒320-0043 宇都宮市桜4-2-7
Tel. 028-621-3566 山本和弘
<http://www.art.pref.tochigi.lg.jp/>

ウェザーリポート

風景からアースワーク、そしてネオ・コスモグラフィア

地理学を学び、さまざまな土地を撮影してきた写真家・松江泰治や、ランドスケープの巨匠ロバート・スミソンらの作品を通して、風景画が提示してきた水平的な眼差しとは違う、“コスモグラフィア”という地球画・宇宙画ともいえる垂直的な眼差しを見つめ直す。垂直軸と水平軸の交差における眼差しを合わせ持つ作品も紹介し、美術における新たな世界画としてのネオ・コスモグラフィアの可能性を探る。

[日程] 6月30日～8月26日
[会場] 栃木県立美術館

● 埼玉県秩父市

ちちぶオペラ実行委員会
〒368-0045 秩父市道生町3-6
Tel. 090-3331-3297 新井真理子

<http://chichibuopera.com/>

ちちぶオペラ公演 オペラ「カルメン」

オペラを通じて秩父地域の芸術文化の活性化を図るため、2011年から毎年8月にオペラ公演を行ってきた「ちちぶオペラ」。今年は、人気が高く、合唱パートの多い『カルメン』をダブルキャストで上演する。秩父地域の出身者・在住者を中心としたソリストのほか、市民により結成されたちちぶオペラ合唱団とちちぶオペラ管弦楽団が活躍し、秩父地域ならではの個性豊かな舞台を目指す。

[日程] 8月18日、19日
[会場] 秩父宮記念市民会館

● 東京都三鷹市

三鷹市スポーツと文化財団
〒181-0012 三鷹市上連雀6-12-14
Tel. 0422-47-5122 齊藤久美子
<http://mitaka-sportsandculture.or.jp/>

ファミリーコンサート in 光のホール 赤ちゃんからのクラシック

幼い頃から音楽の魅力にふれてほしいとの思いが込められた、0歳から入場できるクラシックコンサート。今回はヴァイオリンやピアノに加えて、ソプラノ、パーカッションが新たに加わり、オペラのアリアや三鷹にゆかりのある童謡、ジブリ映画の曲など、子どもから大人まで馴染みの深い曲目を演奏する。

[日程] 9月2日
[会場] 三鷹市公会堂光のホール

● 東京都豊島区

あうるすぽっと(豊島区立舞台芸術交流センター)
〒170-0013 豊島区東池袋4-5-2
Tel. 03-5391-0751 根本・師岡
<https://www.owlspot.jp/>

としまアート夏まつり2018 子どもに見せたい舞台 vol.12 おどる童話『THE GIANT PEACH』

毎夏恒例の「としまアート夏まつり」

り]の一環で行われるオリジナル舞台公演。昨年に引き続きスズキ拓朗を振付・演出に迎え、ロアルド・ダール作『James and The Giant Peach』を歌とダンスであふれる舞台へと創作する。舞台にも出てくる“桃”と“虫”をテーマに、触って遊べる展示やワークショップも同時開催。

[日程]8月6日～12日

[会場]あうるすぽっと



昨年の公演 おどる童話「まほうのゆび」
撮影：引地信彦

北陸・中部

●新潟市

新潟市芸術文化振興財団

〒951-8132 新潟市中央区一番堀通町3-2

Tel. 025-224-7000 今井美沙子
<https://www.ryutopia.or.jp/>

りゅーとびあ演劇スタジオ キッズ・コースAPRICOT 2018夏季公演『ハイジ』

小学4年生から高校生までの約50人の子どもたちが台詞表現、歌、ダンスなどを専門講師の指導を受けながら、グループワークの中で力を合わせ、1年かけて作り上げた音楽劇。2018年3月にスタジオ・トライアル公演を行った『ハイジ』を、完成版として上演する。

[日程]8月10日～12日

[会場]りゅーとびあ新潟市民芸術文化会館

●富山県利賀村

富山県文化振興財団

〒939-2513 南砺市利賀村上百瀬

Tel. 0763-68-2028 久保浩子

<http://www.scot-suzukicompany.com/>

SCOTサマー・シーズン2018

1982年に日本初となる世界演劇祭「利賀フェスティバル」を開催し、世界の舞台芸術家が集まる利賀にて毎年開催されている演劇祭。2018年は世界19カ国をツアーした鈴木忠志の代表作『ディオニュソス』を、インドネシア、中国、日本の俳優で上演するほか、シンポジウムなども開催する。

[日程]8月24日～9月2日

[会場]利賀芸術公園

●浜松市

浜松市秋野不矩美術館

〒431-3314 浜松市天竜区二俣町二俣130

Tel. 053-922-0315 鈴木満広

<https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/akinofuku/>

秋野不矩美術館 開館20周年記念 特別展「藤森照信展」

開館20周年を記念し、同館設計者である建築家・建築史家の藤森照信の建築設計の仕事写真や資料等により紹介する。秋野不矩作品の展示に適した空間として設計された特色ある展示室で、不矩の代表作を展示するとともに、新たに設計された茶室を地域の協力を得て館外に制作し展示する。

[日程]8月4日～9月17日

[会場]浜松市秋野不矩美術館

●愛知県高浜市

高浜市やきもの里かわら美術館

〒444-1325 高浜市青木町9-6-18

Tel. 0566-52-3366 今泉岳大

<http://www.takahama-kawara-museum.com/>

PLAY vol.2 全ては遊びである

⇒何ひとつ遊びではない

福祉でまちづくりという市の方針から、ボーダレス・アートの展示会を開催するなどの取り組みをしてきた当館。本展は、アーティ

ストに限らず、子どもやアールブリュットの作家など、さまざまな人たちの表現を、「遊び」というテーマのもと並置して紹介する。地域にゆかりの表現者を中心に、子どもから大人まで楽しめる、遊び心いっぱいの表現を紹介する。
[日程]6月30日～9月2日
[会場]高浜市やきもの里かわら美術館

●三重県津市

三重県総合文化センター

〒514-0061 津市一身田上津部田1234

Tel. 059-233-1105 宇田恭子

<https://www.center-mie.or.jp/>

M祭! 2018

キッズ・アート・フェスティバル

楽しく学んで体験できる県内最大級の子どもの向けイベント。今年ホールでの「オーケストラ教室」や、「ぶたいであそぼう!」などの劇場体験、藍染めハンカチで広場を彩るインスタレーションアート、工作体験、ファッションショーにダンスなど多彩なイベントが行われる。

[日程]8月5日

[会場]三重県総合文化センター

近畿

●大阪府河内長野市

ラブリールホール

〒586-0016 河内長野市西代町12-46

Tel. 0721-56-6100 山田愉香

<http://www.lovelyhall.com/>

ラブリールホール・オリジナル・ミュージカルVol.9『ヤエクの森』

小学4年生から20代までの生徒が常時約60名在籍するミュージカルスクールでは、毎週歌やダンス、演技のレッスンを行い、学校では体験できない劇場ならではのミュージカル作品を制作している。今年3年ぶりとなる新作ミュージカルを大ホールで

上演する。

[日程]8月5日

[会場]ラブリールホール

●兵庫県尼崎市

兵庫県立尼崎青少年創造劇場
ピッコロシアター

〒661-0012 尼崎市南塚口町3-17-8

Tel. 06-6426-1940 古川知可子

<http://hyogo-arts.or.jp/piccolo/>

兵庫県立ピッコロ劇団ファミリー劇場『さらばドラキュラ』

今年開館40周年を迎えるピッコロシアター。毎年夏は、専属のピッコロ劇団が家族みんなで楽しめる作品を上演しており、今年ドラキュラが主人公の書き下ろし新作。視聴覚障害者の鑑賞サポートとして、リアルタイムで劇団員が舞台の様子を伝える音声ガイドサービスの回を設けている。別日程で県内中学生対象の鑑賞事業としても上演。

[日程]8月4日、5日

[会場]ピッコロシアター

●兵庫県宝塚市

宝塚市文化財団

〒665-0845 宝塚市栄町2-1-1

Tel. 0797-85-8844 浅井・吉田

<https://takarazuka-c.jp/>

ソリオ夏の落語会—こどもがつやく落語会(おとなもかんげい落語会)—

2007年から継続実施してきた「宝塚こども落語教室」が今年で100人目の参加者を迎えることを記念し、子どもを特集して実施する。子どもたちが上演前アナウンスや舞台上での落語を体



ちょこっと落語体験

▼— 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

験できる機会を設けるほか、子どもが活躍する演目(「桃太郎」「子は鎧」)が上演される。
[日程] 8月18日
[会場] 宝塚ソリオホール

●兵庫県川西市

川西市文化・スポーツ振興財団
〒666-0015 川西市小花2-7-2
Tel. 072-740-1117 丹治亜弥子
<http://www.mitsunaka-bunka.jp>

0歳児から楽しめる親子のための舞台芸術～オペラ編『魔笛～パパゲーノの冒険!』

普段は未就学児には鑑賞できない舞台芸術の公演に、0歳児から親しんでもらうための企画。モーツァルトのファンタジーオペラ『魔笛』のコミカルな鳥刺しパパゲーノを主演に新たに制作。オペラの主要な出演者たちに加え、物語を案内するナビゲーター、ピアノやキーボードの演奏でお届けする。
[日程] 8月30日
[会場] 川西市みつなかホール

中国・四国

●鳥根県安来市

安来市総合文化ホール アルテピア
〒692-0014 安来市飯島町70
Tel. 0854-21-0101 坂口寛
<https://www.artepia.jp/>

HAGANE MUSIC 第3弾 PAN NOTE MAGIC

安来市が誇る「ハガネ(鋼)」を音楽になぞらえ、国内外の一流アーティストを招聘するシリーズ。第3弾の今回はトリニダード・トバゴでドラム缶で出来た楽器スティールパンの演奏を習得した日本のグループ「パンノート マジック」が壮大なカリブサウンドをつくり出す。
[日程] 8月26日
[会場] 安来市総合文化ホールアルテピア

●山口県長門市

香月泰男美術館
〒759-3802 長門市三隅中226
Tel. 0837-43-2500 丸尾いと
<http://www.city.nagato.yamaguchi.jp/kazukiyasuo/>

平和祈念展示資料館交流展—私のシベリヤ、それぞれのシベリア—

画家・香月泰男の従軍・シベリア抑留体験から生まれ、生涯のライフワークともなった「シベリヤ・シリーズ」。その関連作品や本人ゆかりの品と、平和祈念展示資料館(東京)所蔵のシベリア抑留の時代背景を知る資料や抑留経験者の持ち帰った品を交差させることで、シベリア抑留について立体的に捉える試み。
[日程] 7月14日～10月14日
[会場] 香月泰男美術館

●香川県高松市

高松市文化芸術財団
〒760-0019 高松市サンポート2-1
Tel. 087-825-5010 玉井直子
<http://www.sunport-hall.jp/>

瀬戸フィルハーモニータイムコンサート～夏まつりinおばけ村～

瀬戸フィルハーモニー交響楽団による恒例のコンサート。テーブル席を囲みながら、オーケストラと同じ目線で見ることができアットホームな雰囲気の特徴。今回は「夏」をテーマに、ロビーにはおばけの飾りつけがあり、浴衣や甚平姿で来場すると菓子がプレゼントされるなど、家族で楽しむことができる。
[日程] 7月28日
[会場] サンポートホール高松

●高知県香美市

香美市立吉井勇記念館
〒781-4247 香美市香北町猪野々514
Tel. 0887-58-2220 高月・矢野
<http://www.city.kami.kochi.jp/soshi/ki/64/>

開館15周年記念企画展「山かく人は楽しく生きてあらし—吉井勇と猪野々びと—」

歌人・吉井勇が隠棲した猪野々(いのの)地区の当時の様子や地元との交流を、吉井の短歌や随筆、地域の写真とともに紹介する。本館は地域住民の強い要望により建設された歴史があり、開館15周年記念の本展も地区自治会との共催により開催し、吉井が猪野々に感じた魅力を再発見する。
[日程] 7月4日～12月2日
[会場] 香美市立吉井勇記念館

九州・沖縄

●福岡県直方市

直方谷尾美術館
〒822-0017 直方市殿町10-35
Tel. 0949-22-0038 市川靖子
<http://yumenity.jp/tanio/>

ぼくたちのかいじゅうワールド

多様な生き物をテーマに、直方市、福岡県ゆかりの作家を紹介。直方市近郊をフィールドにする自然写真家・武田晋一や、空想上の生物を集めた博物館・不思議博物館を開く造形作家の角孝政、突如として巨大化した自然の生き物の姿を描く画家・阿部健太などの作品を展示する。子どもから大人まで参加できるワークショップも多数実施。
[日程] 6月5日～8月26日
[会場] 直方谷尾美術館

●長崎県大村市

大村市文化・スポーツ振興財団
〒856-0836 大村市幸町25-33
Tel. 0957-20-7207 坂口裕司
<http://www.seahat.jp/>

シーハットおおむら開館20周年記念 市民ミュージカル『時間よ、生まれ!』

開館20周年を記念して特別企画されたオリジナル市民ミュージカル。演出・振付は中村龍史、脚本を中村留美子が手掛ける。6

歳から70歳代までの44人が歌って踊って演じる、エンターテインメント性の高いステージとすることで、観客も一体となって楽しめるライブ感覚の舞台となっている。
[日程] 8月18日、19日
[会場] シーハットおおむら

●鹿児島県湧水町

鹿児島県霧島アートの森
〒899-6201 始良郡湧水町木場6340-220
Tel. 0995-74-5945
<http://open-air-museum.org/>

井上涼展 夏休み!オバケびじゅチュ館

ポップな画風とユニークなアニメーション、一度耳にすれば忘れられない音楽など、さまざまな表現活動により独自の世界を展開するアーティスト・井上涼の展覧会。映像や平面、立体、インスタレーションなど約30点の作品が展示され、見る者に不思議な楽しさを感じさせる世界が広がる。
[日程] 7月6日～9月2日
[会場] 鹿児島県霧島アートの森

講座・シンポジウム

アートスクール2018～地域文化を支える人材養成プログラム～SESSION I 舞台講座

第一線で活躍する舞台専門家を講師に迎え、文化創造の現場のスキルと力量を高めるための集中舞台講座。作品づくりや舞台制作、劇場を活かした地域づくりに必要なことは何かなど、舞台芸術を支える人材養成のプログラムを実践を交えて学ぶ。豊岡市内の文化施設などで、演劇の公演やコンサート、展覧会などを行う「Toyooka Art Season 2018」の一環として開催。
[日程] 7月31日、8月1日
[会場] 城崎国際アートセンター
[問い合わせ] 豊岡市民プラザ
Tel. 0796-24-3000
<http://platz-npo.com/>

▼— 今月のレポート

財団の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げてレポートします

北九州市

響ホールフェスティバル2018



上:「こもり〜Dr.ファルケの復讐劇」
下:「0歳からの踊る音楽会」
写真提供:北九州市芸術文化振興財団

● 響ホールフェスティバル2018

[主催] (公財)北九州市芸術文化振興財団
[会期] 6月23日、24日
[会場] 響ホール全館
[プログラム]「響ホール室内合奏団presents 0歳からの踊る音楽会」(23日)、「ショート&ドラマチックオペレッタ こもり〜Dr.ファルケの復讐劇」(24日)ほか

● 北九州市立響ホール

1993年7月開館。客席数720席のシューボックス型ホール。北九州市が八幡東区平野地区に整備した国際交流ゾーンの中核施設「北九州市立国際村交流センター」を構成する施設として「国際村交流センター」「八幡東生涯学習センター」とともに開設。

*1 響ホールの後藤忠雄初代館長の呼びかけにより1998年に結成された北九州市と近郊の弦楽器奏者で構成されるプロの合奏団。響ホールを主な練習拠点、定期演奏会会場とし、北九州市の委託により地域への出前演奏会などを行う。2005年にNPO法人化、2016年から認定NPO法人。

*2 官営八幡製鉄所のあった製鉄のまち「八幡東区」を中心としたJR八幡駅周辺の居心地のいいまちづくりを目指す取り組み。JR八幡駅、八幡東区に関わる自治会・企業・団体などによる実行委員会が主催。響ホールフェスティバルと連携し、第2回から商業施設、図書館、学校などでミニコンサートやワークショップを行う「YAHATA MUSIC PROJECT」を展開。

開館25周年を迎える北九州市の響ホールと響ホール室内合奏団^(*)が、市民と共に音楽や文化をエンジョイする新たなお祭り「響ホールフェスティバル2018」が6月23日、24日に開催された。今年で3回目となるフェスの柱が、芝居仕立ての本格日本語オペレッタで、第2回から子ども連れで楽しめる音楽会をプラス。また、入り口ロビーでは市民団体による無料の演し物が多数行われ、ダンスをテーマにした今年は、ダンスグループ2組がクラシックホールに初見参。ゴスペルグループ、少年少女合唱団のコーラス、九州国際大学吹奏楽部なども出演し、黄色い声援が入り乱れる賑やかな光景が展開していた。

●
響ホールと言えば、1988年に市政25周年記念で創設された北九州国際音楽祭(今年の会期は10月13日~11月23日)の主会場であり、また、国際的なヴァイオリニストの数住岸子さんが音楽監督を務めたことで知られる。しかし、志半ばにして開館4年目に数住さんが45歳の若さで急逝。93年にスタートした響ホールフェスティバルはプロデューサー制で2012年まで継続したものの、社会環境も変わり、事業の方向性が模索されてきた。

今回の新たなフェスを担当したのが八幡西区出身の神田和範さんだ。「私も就職するまで響ホールをあまり知らず、音楽家には知られていても地域に認知されていなかった。そこで“地域の一員になる”を合言葉に、4年前から地域訪問コンサートやポスティングをやりながら、色々な人から話を伺い、フェスの土台をつくっていった」と言う。1年目のフェスをきっかけに八幡東区のまちづくりを行っている「けやきテラスプロジェクト」^(*)のメンバーと出会い、音楽が街に広がる「YAHATA MUSIC PROJECT」が立ち上がるなど、この3年でこれまでになかったネットワークも生まれてきた。

フェスを取材して実感した成果が2つある。ひとつが一芸をもつ地域住民の呼び込みに成功したことで、その代表格が市民ダンサー約40人を抱えるイマ☆タカDance Familyを率いる今村貴子さんだ。「小劇団をやっていたが、北九州芸術

劇場でコンテンポラリーダンスを学ぶ機会を沢山いただき、北村成美さんが市民と一緒に立ち上げた赤シャツ隊のダンスアシスタントをやるようになった。ダンスをコミュニケーションツールとして活かす面白さに目覚め、今では色々なところから声を掛けてもらっている。前はオケの人たちと楽しみながらオペレッタの振り付けもした」。

もうひとつが北九州芸術劇場ディレクターで、劇団「飛ぶ劇場」演出家の泊篤志さんが初回から構成・脚本・演出を担っている“オペレッタ演劇”だ。『メリー・ウィドー』『天国と地獄』を経て、満を持して取り組んだのが今回の『こもり』(仮面舞踏会の帰りに酔いつぶれ、友だちのアイゼンシュタインにこもりの仮装のまま置き去りにされ、赤っ恥をかいたファルケ博士が一芝居打って復讐するというオペレッタの傑作)。仕掛け人のファルケ博士を狂言回しとして俳優が演じ、ストーリーを伝わりやすく整理。歌を減らしてテンポを上げ、2時間半の作品を歌手4人、俳優4人で1時間半に構成。ステージに響ホール室内合奏団28名が陣取り、上手、下手、舞台奥中央に設けた3カ所の仮扉を効果的に使って3場の原作を見事に展開していた。

泊さんは、「オペレッタだからこうした構成が可能になった。最初は音楽と演劇の稽古の仕方や発声方法の違いなど基本的なところに戸惑った。3作目でようやく踏み込めるようになり、今回は俳優も少し歌い、歌手もセリフを喋り、お互いが歌や演技について考えられるようになった」と言う。相方である合奏団楽員長の関原弘二さんは、「ラ・フォル・ジュルネ鳥栖に関わって音楽に対する発想が変わり、こうした家族で楽しめる面白いオペレッタを提案した。未来を育てなければとよく言うが、オケだけでできることではない。こういうフェスでお互いが話し合いながら課題をクリアしていくことが面白さだと思っている」と返す。

パンドラの箱が開いた響ホールでは、今年の秋には地域のさまざまな施設と連携した「アートマンス」を仕掛け、JICAや大学とも新しいプロジェクトをやりたいと夢を膨らませていた。

(編集部:坪池・勝田)